

## 熊本市「幼稚園教諭」の資質向上に関する指標

ステージ		熊本市が目指す着任時の姿			
		基礎・向上期（1～6年）	向上・充実期（7～15年）	充実・発展期（16年～）	
①教職に必要な素養	総合的な人間性・人権意識	○先輩の指導に学び、組織の一員として誠実に職務を遂行する力を身に付ける。 ○遊びを通しての指導に関する職務の理解及び指導技術や技能を自らの実践を省察し、学び続けながら修得する。	○ミドルリーダーとして組織に貢献しようとする意欲と実践力の向上に努め、他の教職員と連携しながら着実に業務を遂行する力を身に付ける。 ○自らの実践を省察することによって、実践的・専門的な知識や技能を修得し、学び続ける力を伸ばす。	○リーダーとして全園的視野に立った企画力・経営力及びチームで業務を遂行する力を身に付ける。 ○自らの実践を人材育成の視点に立って省察し、学び続けながら、高度な知識や熟練した技能を生かして、他の教職員の力量形成を支援する。	
	教育的愛情・情熱 倫理観・使命感・責任感	□熊手を愛し、教育的愛情をもち、一人一人の幼児のよさや可能性に目を向けようとしている。 □法令の遵守と体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを認識し、教育公務員としての高い倫理観と強い使命感、責任感をもち、職務を遂行しようとしている。 □幼児の人格形成に携わる職務の崇高な使命と職責の重さを理解している。	□一人一人の幼児のよさや可能性に目を向け、伸ばそうとしている。 □法令及び服務規律の遵守はもとより、体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを常に意識している。 □幼児を個人として尊重し、その多様性を認め、幼児の考えをよく聞きながら職務を遂行している。	□教職員相互に、人間性や人権意識を高められるような職場となるように働きかけている。 □幼児を個人として尊重し、意見の背景や保護者の思い等でも理解しようとしながら職務を遂行している。 □他の教職員を尊重し、特に後輩教員に対して誠実に職務上の支援や助言を行っている。	
	社会性・コミュニケーション力	□周囲の状況や相手の思いや考えに配慮しながら、自分の考えを伝え、互いを尊重して意思疎通を図ろうとしている。 □組織の一員としての責任感をもち、協働することの重要性を理解し、実践しようとしている。	□幼児や保護者に、自分の考えや思いをわかりやすく伝えるときともに、円滑に意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 □組織の一員としての自己の役割を自覚し、管理職や他の教職員に相談や質問等を積極的にやっている。	□幼児や保護者に、自分の考えや思いをわかりやすく説明するときともに、相手の意図を理解し、課題解決を図れるような意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 □組織の一員としての自己の役割を自覚し、管理職や他の教職員と建設的な意見交換を行っている。	□幼児や保護者や地域等に、自分の考えや思いを組織の中の役割を意識しながら説明するときともに、相手の意図の背景も含めて深く理解し、新たな方向性を見いだすような意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 □管理職や他の教職員と建設的な意見交換を行い、園全体で課題解決に取り組めるよう働きかけている。
	自己教育力・専門性・探究力・創造力	□教職員の役割を理解し、職務内容等に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。 □社会の変化に対応して情報を収集し、探究心をもって学ぼうとしている。	□園における自分の役割を自覚するときともに、自己の課題や多様なニーズをとらえ、専門性を高める研修と実践に取り組んでいる。 □自身や園の強み・弱みを理解し、研修等で疑問点や悩みを相談しながら、求められる資質能力を身に付けようとしている。	□技術の発達や新たなニーズなど幼稚園教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、自らの学びと実践の省察を通じ、課題対応や解決能力を高めている。 □園の課題を理解し、園内外の研修に積極的に参加するときともに、求められる資質能力を高めようとしている。	□技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、継続的に新しい知識・技能を学び続けていこうとしている。 □全園的視野に立ち、他の教職員と協働しながら、一人一人の役割と課題解決力を生かして、計画的に課題解決にあたっている。 □組織的・協働的な体制づくりの重要性を理解し、組織マネジメント等の研修にも参加するときともに、人材育成等、求められる資質能力を高めようとしている。
	危機管理能力	□危機管理の重要性を理解している。	□生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備え、教育活動に生かしている。	□生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備え、安心安全な教育活動を推進している。	□生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備えるとともに、安心安全な教育活動の推進のため、職場の体制を整えている。
	保育構想力とカリキュラム・マネジメント	□幼稚園教育要領を理解するときともに、自園の指導方針及び幼児の実態を踏まえて、ねらいをもとにした短期及び長期の指導計画を作成し、保育を展開しようとしている。 □カリキュラムマネジメントの意義を理解している。	□幼稚園教育要領を理解するときともに、自園の指導方針及び幼児の実態や幼小中高連携の視点を踏まえて、ねらいを明確にした短期及び長期の指導計画を構築し、発達の見通しをもった保育を展開している。 □教材研究の大切さを理解し、積極的に取り組んでいる。	□日々の実践や幼小中高連携の視点を通じて、短期及び長期の指導計画のねらいや内容、園内の環境の構成、支援の在り方を見直している。	□園の行事などで実践の中心的な役割を果たしながら、幼小中高の視点を踏まえ、園全体をコーディネートし、教育課程や短期及び長期の指導計画を見直している。
②教育・保育	保育実践・評価・改善	□幼稚園教育要領及び基本的な指導技術を理解し、幼児の実態に応じた教育活動を行うようとしている。 □学習評価の意義と方法について理解し、一人一人の学習状況を把握しようとするときともに、自身の教育実践を改善しようとしている。 □幼児の動きや活動の展開を予測して、主体的・対話的な遊びや活動を支える環境を構成しようとしている。	□幼児の実態や一人一人の発達の過程を踏まえ、主体的・対話的な遊びや活動を支える環境を意図的・計画的・系統的に構成している。 □園内で進んで研究保育を行ったり、校外（教科等研究会等）の研究保育や研修等に積極的に参加したりして、他の教職員の指導・助言を受けながら保育実践をしている。 □日々の保育実践において、学習目的を達成するための指導支援の方法を工夫し、その効果について自己評価を行い、教育実践の改善を図っている。	□教育・保育の展開を意識して、主体的・対話的な遊びや活動を支える環境を意図的・計画的・系統的に構成するときともに、他の保育者に適切な助言を行っている。 □得意分野において園内や園外（教科等研究会等）の研究保育を積極的に行うとともに企画・運営に携わり、保育実践やマネジメント力の向上を図っている。 □日々の保育実践において、幼児の実態や学習成果を適切に評価し、その結果を自分の教育実践の改善に結び付けている。	
	幼児理解	□幼児理解の意義と重要性を理解し、積極的に幼児に向き合おうとしている。	□幼児一人一人の特性や発達を理解し、個の思いに寄り添った関わりをしている。	□個と集団の育ちを意識して、一人一人の特性や発達をとらえ、他の保育者と連携しながら必要な支援を行っている。	
③幼児理解・教育相談 教職の実践	学級経営と教育相談	□個や集団を指導するための手立てを理解し、実践しようとしている。 □学級担任の役割と職務内容を理解し、よりよい学びの環境をつくろうとしている。	□幼児理解に基づく学級経営を行い、清潔・安全でよりよい学びの保育室環境をつくっている。 □保護者の子育て等についての悩みや要望等を誠実に受け止め、問題の早期発見、未然防止の重要性を理解し、管理職への報告・連絡・相談や他の教職員との情報共有を図っている。 □保護者と連携して幼児一人一人への理解を深め、幼稚園生活への適応や発達を支援している。	□幼児理解に基づく学級経営を推進し、幼児同士のコミュニケーションを促進し、望ましい学級集団をつくっている。 □保護者の子育て等についての悩みや要望等を誠実に受け止め、問題の早期発見、未然防止の重要性を理解し、管理職や他の保育者等との連携を図りながら、問題の解決に向けた取組を行っている。	
	配慮を要する幼児への理解と専門性の向上	□特別支援教育に関わる指導・支援や合理的配慮、及びインクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、保育に生かそうとしている。	□インクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、幼児の特性を把握し、合理的配慮を重視した指導・支援につながる研修や講座に参加している。 □支援を要する幼児の自立を見据えて、寄り添い、一人一人の教育的ニーズに応じた保育を行っている。	□インクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、幼児の特性を把握し、自立を見据えて、適切な指導・支援を行っている。 □個に応じた教育環境の整備や校内での組織的な対応、関係機関との連携を図っている。	
④特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応	保護者との連携	□保護者とのコミュニケーションの重要性を理解し、共通理解を図りながら幼児への支援を実践しようとしている。	□保護者と日常的に情報交換する機会を設け、園や家庭での様子を共有し、個別の教育支援計画等の作成・活用に反映している。	□家庭や地域での生活も含め、今後の自立を見通した個別の教育支援計画等の作成・活用を進めている。 □幼児及び保護者が安心して園生活を送ることができるよう、他の教職員及び関係機関等との連携・調整を行っている。	
	ICT活用	□学びを深めるため、基礎的な情報機器及び教材の活用について理解し、保育にICTを活用しようとしている。	□情報機器及び教材の活用についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、園務執行及び保育等にICTを活用している。	□園務執行及び保育等に必要の情報活用スキルを身に付け、情報やICTを効果的に取り扱っている。	
⑤ICTや情報・教育データの利活用	情報・教育データの利活用	□幼児の教育データを蓄積・活用することの意義を理解し、個別の支援や教育相談等の充実に生かそうとしている。 □熊本市の幼稚園の「園情報セキュリティ実施手順」を理解しようとしている。	□幼児に関するデータを管理・分析し、結果を個別の指導や支援に活用している。 □各園の「園情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切な情報管理に努めている。	□自園の課題をデータをもとに分析・整理し、園全体での年間指導計画の見直しや個別の支援の改善のために活用している。 □情報や教育データの活用を俯瞰的に捉え、自園の課題解決にリーダーシップを発揮している。 □各園の「園情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切に情報を管理するときともに、他の教職員や保護者・地域住民等への指導・啓発・助言をしている。	